

編集・発行 / 庄内町余目第三公民館
TEL 0234-42-0317 / FAX 0234-42-0839
E-mail koumin-3@town.shonai.yamagata.jp

菁莪のまちづくり運営協議会設立総会



令和3年10月17日菁莪のまちづくり運営協議会設立総会にて

菁莪のまちづくり運営協議会

設立趣意書



近年、少子高齢化や人口減少が進行し、地域においても暮らしを取り巻く状況が多く顕在化し、安全・安心、高齢者福祉や見守り等が喫緊の課題となっております。

「庄内町公民館のコミュニティセンター移行基本方針（令和3年3月策定）」では、「庄内町みんなが主役のまちづくり基本条例」に掲げる参画と協働の「地域づくり活動」を推進するため、社会教育・生涯学習事業を継続しながら地域課題解決の拠点として、令和4年度より「庄内町余目第三まちづくりセンター」に移行し、多様化する地域課題に取り組むこととなります。

第三学区においては、菁莪の精神や余目第三公民館の絆づくりを引き継ぎ、学び合い、助け合い、譲り合う豊かでやさしいまちづくりを行っていくために、住民主体の地域づくり拠点として指定管理者制度を活かしながら、住民が自らの課題を見つけ、住民自ら取り組む活動を行い、住民のためのまちづくりを推進します。

ここに、多様化する地域課題の解決に向けた取り組みを、第三学区地域づくり会議、第三学区部落公民館連絡協議会、青少年健全育成第三学区会議の三団体を新しく統合して、協働と地域連携によるまちづくりにより持続的に実践することを目的として「菁莪のまちづくり運営協議会」を設立いたします。

「菁莪」とは、「俊才を教え親しむ」の意であり、由来は古典の詩経（孔子の儒教）からとったもので、人材を育成すること。英才の育成を楽しむこと。また、多くの人材・英才をさす。

* 菁莪のまちづくり運営協議会長新任の挨拶 *



菁莪のまちづくり運営協議会
会長 佐藤 徳雄

まちづくりセンターの
主役は地域の皆様方です

昨年から第三学区公民館のコミセン化及び指定管理者制度の導入に向けて、地域説明会・集落座談会・先進地視察研修・諸会議等を重ね準備検討を行ってきました。本日ここに菁莪のまちづくり運営協議会が設立の運びとなり、ご来賓初め多くの皆様方のご協力に感謝申し上げます。尚、小学校には「菁莪学校」の額が飾られ、学校だよりの「せいがっ子」が地域世帯に回覧され、公民館の菁莪塾活動のように菁莪は浸透し根差しています。

第三公民館は「コンピュータの館」として先進的な役割を担い、社会教育・学術文化の向上、生涯学習の拠点として積極的に事業を展開し、地域をはじめ多くの施設利用者の皆様方から親しまれてきました。これからは第三まちづくりセンターとして公民館の特色を引き継ぎ、施設機能を活かし、第三学区に住む地域住民の交流や要望・事情等を図りながら暮らしを取り巻く諸問題の解決に取り組んでいきます。

「この学区に住み続けたい」「この学区に暮らして良かった」と思われますよう第三学区まちづくりを積極的に推進していきます。



* 来賓祝辞 *



庄内町
町長 富樫 透 様

菁莪のまちづくり運営協議会の設立総会おめでとうございます。今年度は来年度コミセン化移行にむけて4つの公民館で設立総会の開催が予定されています。

コミセン化によって、今まで慣れ親しんでいた公民館という名前がなくなり、社会教育の分野が後退するのではないかと。あるいは、公民館活動そのものが大きく変わるのではないかと。心配もあつたかと思いますが、そうではなく地域のみなさん今まで以上に使いやすく、そして地域課題が解決できる館への移行ですのでご理解いただきたいと思えます。

特に、第三公民館はコンピュータ学習の公民館としての特徴や小学生、庄内総合高校生との交流事業など独自の事業も展開しています。従来の活動に加え、新たな地域課題としての少子高齢化や災害対応などには、地域コミュニティの再生は急務であります。以前あつた、向こう三軒両隣の地域の互助精神が改めて必要と考えております。

本日の菁莪のまちづくり運営協議会設立総会が、そういった意味で真に住民主体となつて相互扶助の連携の意識を持ち新しいまちづくりセンターとして、みなさんがこれまで以上に地域の拠点として地域活動が活性化することを祈念しお祝いの挨拶とします。



庄内町議会
議長 吉宮 茂 様

このたび菁莪のまちづくり運営協議会の設立結成されましたことは、新たな地域活動を推進するために大きな力となるものと感じています。また、社会はご案内の通り人口減少と高齢化、そして、我々の暮らし集落環境も多様化してま

いります。それは、高齢者世帯や一人暮らしの世帯の増加であり、あるいは、子供会活動、そして伝統文化の継承問題、コミュニティの希薄化などの課題が壁となっております。こうした中で、第三学区の皆様におかれましては、昨年度より地域説明会、集落説明会をされて、設立準備会立上げ、このたびの地域運営協議会設立の運びとお聞きしています。

わたくしども議会も住民たちが支え合つて、毎日明るく生活できる地域社会づくりができますよう皆様方とともに取り組んでまいりたいと思ひ、菁莪のまちづくり運営協議会をますますのご発展を心からご祈念申し上げます。



庄内町
教育長 佐藤 真哉 様

昨年度から協議が行われてきた公民館のまちづくりセンターへの移行につきましては、皆様のご理解と協力のもと、9月町議会定例会において、関連条例の可決をいただいたところであります。今後具体的な調整作業を進めることとなります。

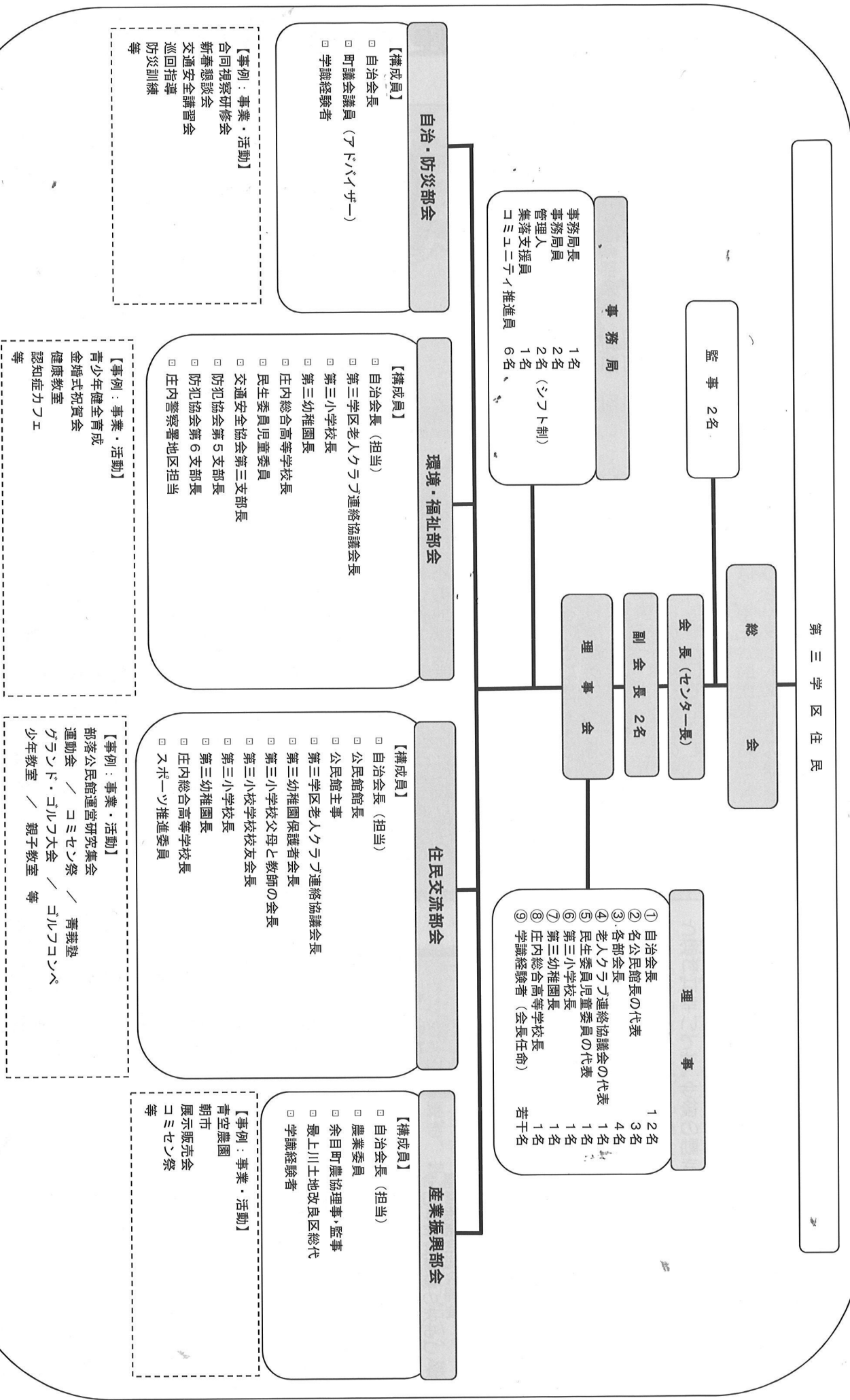
さらに、指定管理者制度につきましても響ホールや社会体育施設は今年4月から2期目に入っており、公民館においてもすでに実施している余目第四公民館に加え4つの学区地区がまちづくりセンターへ移行する令和4年の4月から指定管理者制度を導入することとなります。いずれにしても新たな体制でのスタートに期待と不安はあると思ひますが、皆様のご指導によりその不安を払拭していただき生活しやすく活力ある地域づくりにご尽力くださるようお願い申し上げます。

また、学校現場に38年間いた身としては、子供は地域の宝です。地域コミュニティの核となつて、子供や地域住民が、「おはよう」「こんにちは」「さよなら」「気をつけて行ってこい」といふ挨拶を交わし合い、地域が元気になることを願っています。

社会教育や社会体育を取り巻く環境が大きく変わっていくとらえておりますが、社会教育事業がますます発展するよう教育委員会として、今後も関りをもつてまいりたいと思ひますので、引き続きご協力くださるようお願い申し上げます。

* 菁莪のまちづくり運営協議会組織体制 *

第三学区住民



* 菁莪のまちづくり運営協議会役員紹介 *

						
会長 佐藤 徳雄 (跡自治会長)	副会長 遠田 三一 (提興屋部落会長)	副会長 高橋 満 (下堀野自治会長)	自治・防災部会 部会長 齋藤 正明 (現館長・茶屋町)	環境・福祉部会 部会長 鈴木 修二 (廿六木自治会長)	住民交流部会 部会長 阿部 司 (千河原部落会長)	産業振興部会 部会長 阿部 正雄 (横島自治会長)
					監事 寒河井 恆 (荘内銀行余目支店長)	監事 足達 ひとみ (きらやか銀行余目支店長)

※敬称略

* 第三学区の皆様へ 心より感謝を 申し上げます *

第三学区集落支援員
渡部 幸雄

令和3年10月17日、菁莪のまちづくり運営協議会設立総会が休日にもかかわらず38名のご出席と26名の委任状をいただき無事開催できましたこと御礼申し上げます。加えて集落説明会実施の際にもご参加いただきありがとうございます。

菁莪のまちづくり運営協議会が、指定管理者の指定を受けるための地域運営組織として設立されましたことについて、多くの第三学区の皆様から多大なご理解ご協力いただき誠に感謝申し上げます。さらに、ご来賓の皆様よりご祝辞をいただき、また日下部忠明様より議長として円滑な議事進行等ご尽力いただき厚く御礼を申し上げます。

当日の本設立総会の報告を、館報に特集として割いていただき第三学区の皆様へお伝えできることは、第三公民館から第三まちづくりセンターへスムーズかつ発展的に移行ができることと確信するものであります。

今後とも令和4年度に向けて、第三学区の皆様よろしくご支援賜りますようお願い申し上げます、重ねて厚くお礼申し上げます。

今後の動き

- 令和3年12月
 - 基本協定書の内容について町との協議
 - 町と指定管理に係る5年間の包括協定の締結
- 令和4年1月
 - 組織体制の整備(職員募集・採用試験等事務局体制)
- 令和4年2月
 - 令和4年度事業計画や予算の検討
- 令和4年3月
 - 統合する3団体(第三学区地域づくり会議、第三学区部落公民館連絡協議会及び青少年健全育成第三学区会議)からの引継ぎ事務
 - 令和4年度菁莪のまちづくり運営協議会総会開催



編集後記

今回の館報は、10月17日に開催されました「菁莪のまちづくり運営協議会」設立総会の内容や様子を中心に特集して掲載致しました。地域の皆さんから、これからの第三学区(菁莪)のまちづくりについて、ご理解いただく一助となれば幸いです。今後の動きは、紙面を通じてお知らせ致します。

さて、今年の公民館事業は、昨年から引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により、一部講座等を除き、残念ではありますが実施できておりません。徐々に回復傾向になりつつありますが、計画内容を変更しながらでも、住民相互の交流の場を設定できればと考えています。令和4年4月からは、新体制での社会教育活動となりますが三公での絆を引き継いで行きたいものです。(M・S)